

主要科目の特長（スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科）

こどもスポーツ教育学科のカリキュラムを構成する科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

(2) 専門科目

《学科基礎科目》は「こどもスポーツ教育論」や「発育発達とスポーツ」などの講義および「運動指導法」といった実技科目を含めて、10単位が必修であり、それに加えて選択として3単位以上の修得が必要となっています。

《学科専門科目》のうち必修が78単位となっています。これに加えて選択科目を13単位以上修得することが必要です。

また、幼児教育コース（幼稚園教員免許取得カリキュラムのこと、以下同じ）ならびに、初等教育コース（小学校教員免許取得カリキュラムのこと、以下同じ）には、それぞれコース指定科目が設定されており、それらを修得する必要があります。

さらに、日本スポーツ協会その他の認定する資格を取得する場合は、指定されている科目の履修が必要となります。

(3) 演習科目

こどもスポーツ教育学科では、1年次に「基礎セミナー」および「発展セミナー」、2年次に「専門演習」、3年次に「研究演習」さらに4年次に「卒業研究」を配置することにより、4年間一貫した少人数でのゼミナール形式の演習をおこないます。みなさんは、学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上に努めてください。また、4年間一貫のゼミナール教育で、積極的な人間的交流をはかることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションのパイプを築いてください。ゼミナールは4年間の大学生活の中核であり、学修、研究、指導教員やゼミ生間の交流をとおして大学での学修の集大成となり、将来の人生への基盤となるものです。

基礎セミナーおよび発展セミナー

1年次配当の「基礎セミナー」および「発展セミナー」は、導入および基礎教育をフォローするための科目です。2・3年次においての専門的な研究に取り組むための基礎を築きます。

- ① こどもやスポーツや教育に関する文章を読み、その内容を要約、紹介する。
- ② こどもやスポーツや教育に関する問題を提起し、討論する。
- ③ こどもやスポーツや教育に関する情報を収集し、紹介する。
- ④ 図書検索や、インターネットを利用したの検索を学修する。

①から④の方法をとおして、健康に関する知識を高めながら、読解力の育成や文章を要約しまとめる能力の向上をはかります。

専門演習

2年次配当の「専門演習」では、興味のあるこどもやスポーツや教育に関するテーマを基本に、指導教員のもとで、より専門的な学修をおこないます。

- ① こどもやスポーツや教育に関する図書や文献を読み、その内容について紹介、討論をおこなう。

- ② こどもやスポーツや教育に関する英語の文章を読み、報告、討論をおこなう。
- ③ こどもやスポーツや教育に関するテーマの中で、関心のある事象を調べ、報告する。
- ④ レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

研究演習

3 年次配当の「研究演習」では、こどもやスポーツや教育に関する多くの課題の中から、卒業研究テーマを模索しながら自らの関心を絞り込み、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

- ① 国内および海外で刊行された専門の文献や著書を読み、その論点の要旨を理解する。
- ② 専門の文献や著書の読解をとおして、その論点を理解し、問題点を探る。
- ③ 関心のある事象の問題点を整理し、その解決方法を探る。
- ④ 関心のあるテーマを絞り、研究課題を策定、プレゼンテーションをおこなう。
- ⑤ プレゼンテーションおよびその討論を基礎にして研究報告書（4,000 字以上）の作成をおこなう。

卒業研究をおこなうための基本的研究への取り組み姿勢を養いながら、研究の方法論を身につけてください。

なお、「研究演習」の登録は前年度の秋学期から開始され、選考がおこなわれます。自分の希望する教員のゼミでどのようなことがおこなわれているかを演習概要で確認してください。そして、オフィスアワーを利用するなどしてその教員を訪ね、面談の上で決定すると良いでしょう。

卒業研究

「卒業研究」は、「研究演習」の指導教員のもとで作成した「研究報告書」をもとに、専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文（10,000 字以上）にまとめます。

◎専門科目の一部をピックアップ

地域スポーツ論

地域スポーツ(する・みる)の仕組みと現在の諸問題を学修。諸問題については小レポートを作成し、その要因や解決策を考えていきます。そして、スポーツが地域に根付くための方法を思考し表現できる力を育みます。

主な身につく力



課題発見力

論理的思考力

観察力

探究心

地域理解

こどもの運動遊び(伝承遊びを含む)

幼少期の遊びを通した基本的な運動動作の獲得のための指導法について学びます。活動計画の作成と指導の実践や体験を通して、協働的な計画立案や実行力、人間関係づくりの力を養います。

主な身につく力



計画力

創造力

発信力

コミュニケーション能力

協働性

初等社会

小学校社会科教育における目標・内容・方法論について取り上げ、授業づくりの基盤を構築。学問的アプローチをふまえ、教材開発、発問構成、授業構成の方法を理解し、社会科教育観の形成を目指します。

主な身につく力



計画力

創造力

論理的思考力

プレゼンテーション力

探究心

保育内容演習(表現・音楽)

クリスマスページェント(聖劇)を、こども讃美歌などを盛り込んだオペレッタにしてチャペルや保育園などで上演します。台本から衣装、小道具に至るまですべて学生自ら作成し、保育現場での即戦力となる力を養います。

主な身につく力



実行力

創造力

コミュニケーション能力

協働性

表現力